

ロシア為替週報

2021年8月23日 | みずほ銀行欧州資金部

〈過去1週間の動き〉

(8月14日～8月20日)

USD/RUB: 73.240～74.580

過去1週間のロシア・ルーブル相場は、下落。週初、緩やかな軟調推移で始まり、週中から週明けにかけて下げ足を強めた値動き(対ドル)は、原油価格のそれと一致し、ルーブルが原油価格動向の影響を色濃く受けていた可能性を示唆した。実のところ、この間、市場を賑わした話題は、米連銀金融政策動向や中国の規制動向、及びそれらに伴う株の乱高下ばかり、市井のニュースもほぼアフガニスタン動向一色で、ルーブルに対する関心も、ルーブルが材料視するような要因も、近年、記憶がない程に乏しかった。ルーブルの取引をするのに、原油価格動向以外になんの手掛かりもなかった、というのが実態に近かったのではなかろうか。原油価格に影響を与えたのも、中国7月小売売上高、同鉱工業生産の下振れ(それぞれ16日)や、米連銀7月公開市場委員会議事録(18日)、コロナ禍拡大(デルタ株蔓延)や中国規制強化に対する警戒感などだった。米連銀の議事録は、大半の委員が年内の資産購入ペース縮小(テーパリング)を志向している点などが、「予想よりも鷹派的」と読まれ、景気抑制要因として警戒されて、ドル押し上げ要因にもなった。20日、プーチン大統領はメルケル独首相と会談。ウクライナ、ベラルーシ、ノルドストリーム2などの他、イラン、アフガニスタンなど、幅広いテーマに関し話し合ったと報じられたが、市場は、ほとんど関心を払った様子を見せなかった。

〈向こう1週間の見通し〉

(8月21日～8月27日)

USD/RUB: 73.90～74.80

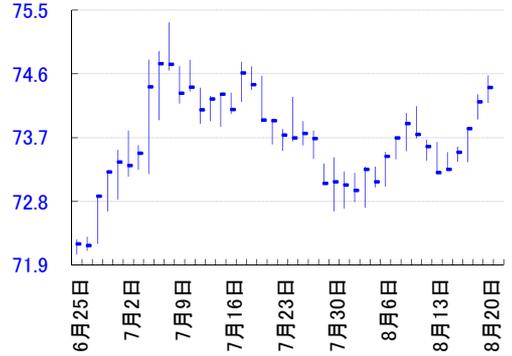
向こう1週間のロシア・ルーブル相場は、足下軟調推移の継続を予想。ただし、ルーブル安を見込むのは、ドル高を見込むからであって、ドル高を見込む根拠も、足下のドル指数(ICE)上抜けやユーロ/ドル底割れ(ドル高)を受け、少なくとも暫くはドル堅調が続くのでないか? というテクニカルな要因に過ぎない。先週そうであったように、他にルーブルに影響を与えそうな要因を思いつかない。金融市場全般の関心が、カンザスシティ連銀経済シンポジウム(26～28日@ジャクソンホール)に集まっているのは間違いない。市場の大勢は、米連銀による金融緩和縮小の着手時期に関する具体的な示唆が得られる可能性を期待している模様。実際に、市場のコンセンサスが形成されているのなら、そのコンセンサスから外れた結果に対する反応の方が大きくなるはずだが、こればかりを結果を見るまでなんとも判断できない。また、翌週(3日)に米8月雇用統計を控え、ジャクソンホールが片付いたら、次は雇用統計待ちの様子見が続く可能性も考えられる。それ以前の問題として、金融緩和縮小観測が、米長期金利や、ドルに与える影響も、一筋縄では読めない。年初来、米インフレ警戒感と金融緩和縮小観測は、ほぼ一貫して強まってきたと言って差し支えないと考えるが、市場の反応は、①1～3月は米長期金利上昇とドル高(最も自然な組み合わせと言える) ②4～6月央は米長期金利頭打ち(低下)とドル反落(これも調整的な位置付けで自然な流れと言えよう)と推移してきて、何故か、③6月央以降、米長期金利低下とドル急反発という組み合わせへと変化してきている。③の組み合わせについては、ここにきて「リスク回避のドル買い」とか「有事のドル買い」とか言う解釈を聞くようになった。こうした相場の変転を、後講釈で解説することはできるかもしれないものの、肝腎の「次の相場」となると、何が待っているのか、さっぱり見当がつかない。ドル高の継続を中心に見込むのも、テクニカルな要因の他に、わからない以上、足下地合の継続を中心に見るのが「無難」ではないか=なにかしらの変化を見込むのであれば理由が欲しいが、その理由を思いつかないという判断でもある。

〈向こう1週間に発表予定の主要経済指標等〉

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
8/25	16:00	鉱工業生産(前年比)	7月		+8.0%	+10.4%

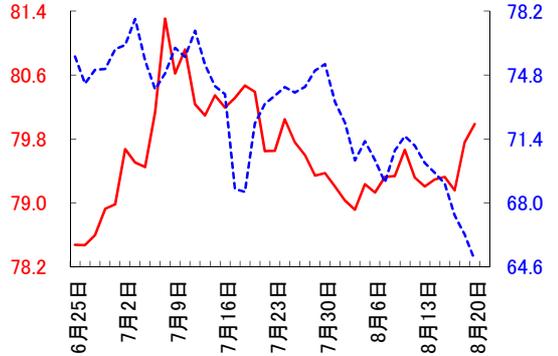
(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

USD/RUBの推移(日足/ロンドン 7:00～17:00)

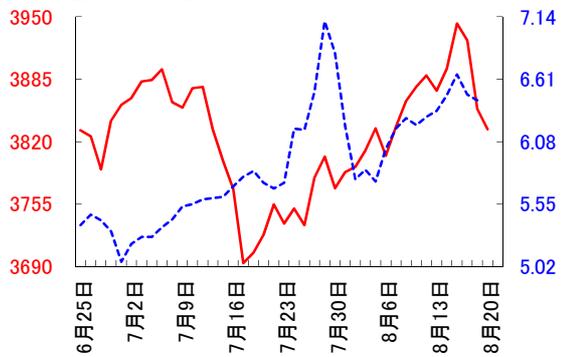


株ルーブル/バスケット推移(ロシア中銀公示)

原油価格推移(ブレント直物)



株式/金利相場の推移(MOEX指数/当翌物金利)



(資料: ロシア中銀/ロイター/ブルームバーグ)

ロシア関係主要経済指標

1週間物入札金利		6.50%
成長率(GDP/前年比)	Q2	+10.3%
失業率	6月	4.8%
消費者物価(前年比)	7月	+6.5%
小売売上高(前年比)	6月	+10.9%
鉱工業生産(前年比)	6月	+10.4%
貿易収支(USD)	6月	+18.3bn

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。